

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	ツクイ札幌太平サンフラワー <2F>	評価実施年月日	2009/1/8～1/24
評価実施構成員氏名	出村富美子・菅野富子・佐藤すみゑ・豊田幸子・佐々木美保子・伊藤正一・斉藤真穂		
記録者氏名	出村富美子	記録年月日	2009/1/25～3/8

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	職員で話し合い「地域密着」を盛り込んだ理念を作り上げた。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	朝の申し送りの際に、社訓と共に唱和している。 接遇マナー研修やカンファレンスなどでも理念と繋がる話し合いがなされている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ホーム内に理念を掲示している。 地域の方は散歩や近隣への外出、町内会行事などでの交流を通して自然な形で理解をいただいているように感じている。入居者様が外に一人出ている時など気にかけて見てくださる方もいる。 ご家族には必要なときにはお話ししている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	去年の七夕がきっかけで近所の子供たちが時々来てくれるようになったり、近所の方が囲碁の相手をしに来てくれている。 暖かい日は毎日散歩に出るので、近所の方や、公園に遊びに来たご家族などと、自然な形で会話を交わしたり庭を見せていただいている。 鯉のぼりも近所の方からいただいた。	○	6月頃に庭でバイオリンコンサートと8～9月頃にディサービスと合同でお祭りを開催する予定になっている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会のゴミ拾い、資源回収、お祭りなどに参加している。 毎週金曜日に行なっている、クリーンアップ活動はご近所でも浸透してきており、環境整備の役員の方からゴミ袋や軍手をいただいたり、「いつもご苦労様」と挨拶して下さる方が多くなっている。		
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	直接の支援は特に行なっていないが、民生委員さんとは運営推進会議の中で情報交換をしている。現在の体制では多くのことは出来ないが相談などにはいつでも応じていきたい。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価表に取り組むことは日頃のケアを振り返る機会になっている。改善に取り組むまでに時間がかかってしまっているが、地域との交流などは自然な形で広がってきている。	○	もう少し早い時期に自己評価表に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議はこちらからの報告事項が中心となっているが、参加者からボランティアの方を紹介していただき、とても助かっている。地域包括支援センターの職員の方からは、運営上の悩みなどに対して助言していただくことがあり参考にさせてもらっている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市役所への訪問は書類の提出時のみだが、料金改定やショートスティの件などで相談にのってもらったり、資料を送ってもらうなどの協力していただいている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	財産の管理などはご家族がしており、制度を利用する方もご家族で手続きを行なった。学ぶ機会は特に設けてはいない。	○	成年後見制度を利用する方がお一人居るのでこの機会に、少しずつ勉強する機会を作っていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	区内の研修会や本社の巡回研修などで学ぶ機会がある。危険を回避するために、言葉による行動の抑制などはついやってしまうことがあるが、「これも抑制なのかな？」と考えながらケアに当たることができるよう取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書、重要事項説明書の説明は入居時にきちんと行ない、必ず質問の有無を聞いている。事前に契約書などをお渡しして、熟読していただくこともある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	認知症の度合いが違うことから来る不満や苦情があるが、時間をかけて話をし理解していただけるようになってきた。 職員で相談し可能な部分は改善している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	度々訪問してくださるご家族が多く、その都度様子をお話している。健康状態に関しては心配なことがあった時は電話で連絡している。お便りなどを通しても行なっている。 立替金の明細は月末にメ、翌月に郵送している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約の際には必ず公的機関の「苦情相談窓口」があることを説明している。玄関には苦情箱、本社にもお客様相談窓口がある。苦情を受けたときは受付票に経過などを記録し、担当で話し合い改善策に繋げている。現在でも施設という場ではご家族は弱い立場にあるように思われるので、とにかく率直にお話が出来るような関係作りを心がけている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は日頃から職員の意見を聞かせてもらうように心がけている。 会社は現在全従業員を対象にアンケート調査を行い、意見を汲み取る機会を作っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務調整を必要とする要望や常態の変化は今のところ見受けられないが、必要な時は対応したい。	○	職員が充足している時は冠婚葬祭には対応できるようにしていきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	家庭や体調に合わせた雇用形態やシフト作りなど、働きやすい職場環境を作るよう普段から配慮している。 給与面はこれまでも夜勤手当や交通費の支給が認められるなど改善しているが、4月の法改正後に更に改善されることを期待したい。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	本社から講師が来る巡回研修は今年度で2年目となり、他の職員に伝える巡回研修も定着している。サービスごとではコミュニティリーダーが中心となって研修計画を立て実行している。 外部の研修も必要に応じて、職員の参加を呼びかけている。 資格取得を希望する職員には研修を受けられるようなシフトを作っている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	今年度はオムツの研修を企画して近隣のGHIにも参加を呼びかけた。 管理者同士の繋がりがあるGHIは、頻繁ではないが職員の訪問などもある。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職場の人間関係は良好。 ケアの面で辛いことや大変な部分は個人の問題と捉えずみんなで話し合い解決策を見出していく風土が出来上がっている。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	どの職員も一生懸命勤務にあたってくれている。出来る限りの待遇改善を図っていきたい。会社では資格取得支援制度を設けている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	事前の面接は必ず行い出来るだけ本音を言ってもらえるようリラックスした雰囲気作りを心がけている。見学にこられない方にはパンフレットなどを見てもらいGHがどんな場所なのか具体的にイメージできるように説明している。 困っていることや不安なことが表現できない方や、入居をイメージが出来ない方の方が多いので現実的な取り組みは入居後に本格化するのが現状である。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご本人からの要望が十分に聞けないことが多い分、ご家族からは十分にお話を聞かせてもらうようにしている。GHIについて未だによく解っていない方が多いが、お話することでとても安心していただける。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	介護保険制度がまだ十分に理解されていないため、ちょっとした情報提供でも参考になることがあるようで、満床ということもあり、最近はこのような形の相談が多くなっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	可能な時は、見学時に他の入居者様とお茶を飲みながら楽しく会話できる機会を作り、安心して入居につながられるよう工夫している。	○	申し込みの時点で出来るだけご本人の見学をお願いしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	調理の仕方など学ぶべきことがたくさんあり、共に喜んだり楽しんだりすることが多くある。 職員と入居者様がお互いに出来ない部分を補い合い、支えあう関係が出来ている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	出来たことや新たに発見された思いや行動をご家族に伝え、共に喜び励ましあえるように努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	職員が間に入ってさりげなく双方の思いや言動を伝えていくことで、誤解が解けたり、こじれてしまった関係の結びなおしに繋がるケースが見受けられる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前にいつも行っていた美容室やスーパーへ行けるよう支援をしたり、出身大学の構内や職場など入居者様の馴染みのある場所に外出レクを兼ねて出かけたりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	認知症の度合いや性格のちがいなどで円満な人間関係を維持していく事はとても難しいが、一人ひとりの良いところを職員が引き出していけるよう、また入居者様同士が関わることでプラスマイナス両面の力が強くなることを理解しながら支援することで、入居者様同士の支えあえる関係が少しずつ出来上がっている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居後も継続的な関わりを必要としている方はいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	美容院やゴルフ場、喫茶店など行きたい場所に行くことや、相撲をゆっくり見たい方は集中してじっくりとテレビを見られる席を用意するなど本人の意向は出来るだけ把握し応じている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	新たに本人やご家族から聞いた新しい情報をノートに記録するようにしている。	○	取り組み始めたばかりだが、ケアプラン作成に活用できるようにしていき
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの生活リズム、心身の状態、出来る力を把握しながらケアに当たるよう努めている。 体調や精神面での変化が大きい方が多いので、さりげなくかつしっかりと様子を見ながら対応している。	○	できる力を把握しきれていないのが課題となっている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	3ヶ月毎にモニタリング、カンファレンスを実施し本人とご家族の気持ちや要望を大切にしながら介護計画をみんなで作るよう心がけている。 ご家族の訪問時にケアに関する要望などを聞くようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	最近は大きく状態が変わった方はいないが、必要時には見直しをしている。 ケアをする上で注意することなどが発生した時は申し送りノートで共有している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケア記録や申し送りノートに記録し情報の共有を図っている。 モニタリングやカンファレンスで討議し介護計画の見直しに繋げている。	○	日々の記録の特記欄に介護計画に繋がるような本人の言葉や気づきなどを書くようにしていく。 記録を担当している日勤と夜勤以外の日も記録に携わるような意識作りをしている必要がある。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	美容室の送迎やディサービスの利用、ご家族に代わって外出の同行など柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ディサービスにボランティアさんが来るときは参加させてもらっている。(三味線。フラダンス、太鼓など)		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	隣のディサービスとはボランティアさんによるイベントに参加させてもらったり、利用者の少ない日に合同レクなどを行なっている。 個人で定期的にディサービスに行く方もおられる。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターとは運営推進会議や管理者連絡会の役員会などを通して、情報交換や意見交換を行なっている。個人単位での取り組みではないが、北区のGHと包括が連携を強めていく方向性では一致している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	医師選びは本当に大切であり、現在のホームの協力医は4人目。職員やご家族の要望を聞き入れてくれ相談に応じてくれるので良い関係が築けている。外来受診や入院した際にも適切な医療を受けられるよう、認知症のサポート医が早く増えて欲しい。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	信頼のおける専門医が見つからない。	○	GHなので極力向精神薬などの薬を使用しない医療を勧めてくれる医師を見つけたいと思うが、以前の協力医が信頼できる精神科医を探したが、適当な医師が見つけれなかった。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員は週1回の勤務ではあるが、気になる症状が見られるときなどは相談できる体制ができています。電話やメールでの連絡も行なっている。	○	協力医側の体制次第が十分に整わない場合は、訪問看護ステーションとの契約もいずれは必要になってくると思われる。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	状況に応じて連絡をしてもらえるよう病院側には働きかけをしている。また、精神的に不安定になったときなどは極力早期に退院できるよう病院側と相談している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	以前の看取りの際は医師と職員でカンファレンスを開催し方針を共有した。(身寄りの無い方だったためご家族の参加はなし)) 現在は該当する方がいない。	○	今後終末期に入る方がいる。以前とは協力医が違うため早期に話し合いが必要になるとと思われる。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	現在の協力医は訪問の体制が整っていないため終末期に対応するのは難しい状況にある。法人としては、在宅での看取りができる体制を整えていく方向性で進んでいるので今後の進展を見ながらホームとしての対応を検討していく。	○	現在の入居者様の状況を考えると、看取りにはご家族の協力が必要不可欠になっている。そのことを踏まえた上でご家族がどのような終末期を望むのかを聞く機会を作りたい。その結果次第で協力医と今後に向けて相談していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	他のGHに移られた方は職員が見学し書類による情報提供のほかそれまでの経過などを詳しく説明させてもらった。ご家族にも見学していただいた。 身寄りの無い方で高齢者住宅に移られた方の場合、担当のCMを探し詳しい情報提供を行なった。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	個人情報の保護に関しては職員全員にマニュアルを渡し徹底している。 接遇マナー研修などを通して言葉遣いの改善にも取り組んでいる。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	自己決定できる方が多いので、出来るだけ会話を多く持ち本人の希望や思いを引き出せるよう支援している。	○	声掛けがパターン化してしまっている傾向がある。従来の関わり方に対して入居者様の反応が違ってきている方などは思いの引き出し方がきちんと出来ていないのではと思われる。改めて自分たちの関わり方を点検していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	やりたいことや行きたい所などを日常的に聞いて可能なことは対応している。 夜間は睡眠のリズムが不規則な方が数名いるが、その方の希望に添うことを尊重し、入居前から眠剤を常用していた方も薬の使用は最低限にしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	二ヶ月に一度訪問理美容をお願いする他、定期的に行きつけの美容院に送迎している方がいる。 ハミガキとクレンジングクリームを間違えるなどの症状が見られる方もいるので、洗顔時など職員がさりげなく見守りしている。 おしゃれをすると皆さん本当に素敵なので、自然な形で賞賛している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備と片付けは入居者様と一緒にこなしている。 盛り付けは入居者様と相談しながらきれいにのしように盛り付けるよう工夫している。 おしゃべりしながら楽しく作業するように心がけている。	○	メニュー作りの入居者様の希望をもっと反映していけるように「おいしい」と言ってもらえたメニューは申し送りノートなどで情報共有していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	タバコは喫煙場所で自由に吸ってもらっている。飲み物は常時いろいろな種類の物を用意して選んでもらい、おやつは買い物の際に選んでもらって買っている。お酒は普段は希望する方はいないが新年会や焼肉パーティーなどでは用意している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を見ながらできるだけトイレで排泄できるように声掛けしている。尿路感染の危険性があるため、本人の望む以上にトイレの声掛けをしてしまっているのではないかと反省もあり検討課題になっている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	以前は夜間に入浴していた方もいたが、現在は夜間の入浴は疲れるようで希望しなくなっている。 歌を歌いながら楽しく入浴したり、入浴中に会話が増える方もおられる。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	居間のソファの位置を変えたり、その日に落ち着ける場所がどこなのかを見極めながら休息の場所を確保している。 夜間に居室で休みたがらない方は、無理強いすること無く居間でも暖かくゆったりと休めるように配慮している。安心してもらえるような声掛けを常に心がけている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	調理、縫い物、買い物、洗濯などできる家事、得意な家事は積極的に関わっていただき役割として定着している。 相撲や朝の連続ドラマなど昔から見ていた番組や懐メロのビデオを楽しんだり、外出やゲーム、体操などで気晴らしをしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	3名の方が自分でお金の管理をしており、頻繁ではないが自分で買い物をしている方もいる。 普段の買い物は立替金制になっているが、温泉旅行などお金を使う機会のある時は、個々にお金を持ってもらい買い物ができるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	毎月の外食や外出レクの他、日常的には散歩や庭でのティータイム、買い物などに出かけている。 その日の天気や入居者様の様子を見ながら、その都度相談し喫茶店、石狩浜、丘珠空港、牧場などいろいろな所に行って楽しんでいる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外出レクはほぼ毎月行なっている。温泉、イチゴ狩り、紅葉見物、JRタワー、夜のイルミネーション見学などいろいろな所に行き、好評であれば翌年も行くようにしている。温泉一泊旅行にもご家族と共に行くことができた。	○	ゴルフの好きな方を昔よく行っていた銭函のゴルフ場にお連れしたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話機のボタンが小さく見づらいため、職員が番号を押しているが5名ほどの方はご家族などに電話をかけている。 手紙のやり取りはできていない。	○	普段から字を書く機会を作っていない。 まだ、かける方が複数いるため年賀状や書中見舞いなどを書けるように支援していきたい。 普段の生活の中でも字を書く機会を考えていく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族、親戚、知人など馴染みの方の訪問は多い。 入居者様同士の関係が上手くいっていないとご家族も訪問しにくくなるので、関係改善に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の研修に参加して会議などで他の職員に伝達している。言葉による拘束もしないように心がけている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵はかけていない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	センサーマットやナースコールを使い安全を確保できるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	裁縫道具を自室で保管している方、編み物の棒針をスタッフルームで預かっている方などその方の状況に応じて対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒があった場合はその都度原因を探り、介助方法の見直しなどを話し合う。 薬は作る時、その日の分をセットする時、本人に渡す時と3回チェックすることを徹底している。 喫煙者は現在は火の始末をきちんと出来ているが喫煙場所のチェックや吸殻の処理など常に気をつけている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	研修で基礎知識は学んでいるが、訓練はできていない。	○	心肺蘇生法の講習を、消防署に依頼して行ないたい。 本社の研修内容は共有済みだが、定期的に勉強会をしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2回の避難訓練は実施しているが地震や水害対策は特に行なっていない。 非常食の準備も水しか備えていない。	○	共用スペース、居室共に家具の転倒防止策を考える。非常食や非常持ち出し品を準備しておく。 GH版非常災害対策マニュアルを会議で共有する。 スプリンクラーは21年度中に設置する計画になっている。工事開始の際ご近所にあいさつ回りをする予定なので火災発生時の協力をお願いする。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	事故に備えてご家族と相談し、センサーマットを設置したり、テレビ台を安定したものに変わってもらうなど考えられるリスクに対しては早めに対処している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	難しい疾患を抱えている方が多いので、毎日のバイタルチェックの他浮腫や排泄状況、精神状態など細かい点も注意して観察している。気になる様子が見られた時は協力医に連絡し指示をもらっている。情報共有は申し送りノートに記入したり、職員間で直接行なっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	まだ十分には出来ていない。その方の健康状態と服用している薬を結びつけて理解することで薬を覚えるきっかけとなってきた。	○	いろいろな疾患を抱えている方が多く薬の種類も多いため、理解したいという気持ちが職員に強くなっている。ケア記録のファイルに一人ひとりの服用している薬を書き出していつでも見れるようにしていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分やヨーグルト、食物繊維の摂取の他、毎日の体操や散歩、廊下歩行などで身体を動かすようにしている。排便が無い時は腹部マッサージやウォッシュレットで刺激するなどして出来るだけ下剤に頼らないように心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔ケアが自立している方は朝と就寝前に行い、介助の必要な方は毎食後行なっている。 自分でやってもらい磨き残しがあれば職員が手伝っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量や水分量を毎日チェック表に記録している。 歯の無い方は刻み食にしたりやわらく調理し、主食しか食べなかった方は食器をワンプレートにすることでおかずも食べるようになった。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザは全職員が予防接種を受け、うがい手洗いはホーム全体で徹底している。三層式の使い捨てマスクも常備している。肝炎検査も全員実施済み。 ノロウイルスの流行期にはジアノックやグローブ、ビニール袋など必要なものを一式バケツに用意していつでも対応できるようにしている。会議でマニュアルの読みあわせを行なっている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板や布巾などは毎日消毒し、食材は賞味期限に気をつけたり十分な加熱を心がけている。ノロウイルスの流行期には生もの、二枚貝は料理に使わないことを徹底している。冷凍した物は自然解凍を避け、電子レンジで解凍している。 会社で衛生管理マニュアルを作っているので、会議の際に読みあわせをすることもある。 食中毒警報が出た場合は台所に通達文を貼り、職員全員に注意を呼びかけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	外から見た玄関は殺風景なので、暖かい季節は扉を開けたままにしている。内部は装飾品などを飾り明るい雰囲気になっている。	○	今年こそは玄関前にプランターを置きたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	照明一つでも明るいほうが好きな方もいれば、「もったいない」と怒る方もおられ、全員が居心地よいと感じる環境づくりは難しいが皆さんの意見を聞きながら対応している。 清潔を保つことには配慮している。 お花を飾ったり季節に応じた物(クリスマスツリー、まゆだまなど)を飾っているが季節感を取り入れる工夫が十分ではない。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	喫煙スペースは一人でゆっくりと過ごせる場所になっている。 ソファを二箇所に分けたことで過ごし方の好みに応じて他の方との距離を工夫できるようになった。 廊下の端の椅子も利用されている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や手作りの小物やアルバムなど思い出の品を持ち込んでいる方が多い。 自室でゆっくりとテレビを楽しんだり、ラジオを聴きながら眠られるなど落ち着いて自室で過ごされている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	ホーム内は24時間の換気システムになっている。居室や台所の窓を開けての換気もこまめに行なっている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	歩行が不安定でも自力歩行する方にはセンサーマットを設置したり、夜勤帯は途中で休めるようにところどころに椅子を置くなどしている。 建物内部はバリアフリーで廊下や浴室などには手すり、トイレには背もたれが付いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トレや居室、靴箱の中など分かり易く表示している。 このような点では混乱する方は今のところはいない。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭にテーブルと椅子を用意して外でのティータイムを設けたり、畑を作って野菜を育て収穫している。 夏にはご家族と共に焼肉パーティーをしたり、秋には収穫祭をやっている。	○	今年はパラソル付きのテーブルを用意して、暑い時期でもゆっくりと庭で過ごせるようにしたい。 お花をもっと沢山育て、入居者様と一緒に水やりなどもしていきたい。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない
【特に力を入れている点・アピールしたい点】 （日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）		